

NPO 法人 ベーシックライフインフォメーション協会 会報 第20号

台湾人戦没者慰霊碑で 追悼式挙行

協会恒例の台湾人戦没者慰霊碑前の追悼式は今年十一月二十二日に日本人と台湾の人の参加により静寂の中、慰霊碑前で行われた。今年は新型コロナウイルス感染症蔓延の中であったので参加者は総員七人にとどまった。一同はレンタカーで出発した。

追悼式は浄土真宗参宝院住職 松山友真氏により施行された。ボランティアでお引き受けいただいた。住職は大泉学園駅近くで寺院を開いている。

追悼式は表白に続き讀仏偈の読経が懇ろに行われ、一同、戦没者の霊を弔った。

これに先立ち、参加者は慰霊碑周辺を丁寧に清掃し、生花を飾り供物をお供えた。当日は快晴でこの位置からは奥多摩湖がくつきりと眺められ山々の紅葉も見事で静寂の中に



山に登った達成感を味わうことが出来た。周囲は高木の枝打ちもなされて明るく、また先年一般財団法人台湾協会の手により改修された堅固な柵によって安心してお参りが出来ることに感謝した。

昨年会報第18号で安全柵整備者を誤って報じました。ここにお詫びして訂正します。

一行はこのち青梅街道を下り夕刻帰着、静かな一日を終えた。



お知らせ

第五回オール台湾デーは中止になりました

今年度行事の一つ 第五回オール台湾デー（令和三年一月九日開催予定）は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止します。

寄稿

**感謝 本当にありがとう
花には水を、人には愛を**

Artist 池依 依依

花はなぜ美しいのでしょうか？

花は太陽に向かって一生懸命に、無心に咲いているから、花は自分の美しさを知りません。今回戦没者慰霊奉仕の集いに参加の機会をいただきお世話いただいた協会に深くお礼申し上げます。

私 池依 依依（いけい）は台湾で生を受け、日本に帰化した日本人です。戦後75年過ぎた今でも、わが先達のために、その志を示し、冥福を祈られる想いに感動を覚えざるを得ません。

まずもって日本という異国で尊いのちを失われた方々に対する慰霊の念です。さぞ無念の念を強く持つてこの世を去られたことでしょう。こうした方々を慰霊するため慰霊碑の建立に努力された日本人の方々、さらに慰霊祭を毎年催行されてきた有志の方々にあらためて敬意を表したいと思います。

心から3つの願いを込めています。それは鎮魂、癒し、夢と希望です。

戦時中、台湾および日本国内で、戦時に関して従事した台湾出身者が20万人余りいて、そのうち15%ぐらいの方が亡くなっているよ



うです。この慰霊碑として、日本国内に数多くたてられており、奥多摩湖もこの一つの方法です。

この慰霊等の場所は息をのむ美しさ、訪れる静、夢を叶える、癒される、緑の湖、はるか下にダムを見下ろす、今は亡き多くの戦没者の霊を慰めるにふさわしい、すばらしいロケーションです。

～心奥底に響く生命の讃歌～
～幸福を呼ぶ慰霊碑の微笑み～

この世の因縁で結ばれた生命は、海の波が打ち寄せ砕けると同じようにあらわれまた消えてゆきます。私は、このような生命の誕生と輝きを描きた

いと思っています。

犠牲となられた台湾出身戦没者の尊いお命をうしなわれたことを深く心にきざみ

～花には水を、人には愛を～

台湾の人々は今なお日本人に対する温かい友情絆を持ち続けてくれます

永久に風化させないために安らかに永眠してください。

この様なダムを見ると私はダムの設計に携わった父のことを思い浮かべます。私の豊かな生命力は、父親から譲り受けたものです。父は芸術に対する鋭い洞察力や感性を持っていました。

父からは、よく八田與一さまのことを語ったことを思い出します。(縁が舞い降り)

夢は人を裏切らない、素敵なご縁を本当にありがとう。

人はすべて無限の能力と感性を持っています。希望に向かって進みましょう。私たちは新しい文化の洗礼を受け、心の中塵を洗い流し人類皆一緒になつて、「真・善・美」を蘇らせましょう。

日本と台湾の関係強化の為に努めてきましたの、歴史的に文化芸術交流を続けている。皆様に本当に感心・感動・感謝です。

台湾の人は、日本人のことを自分の家族のように慕い大切にしています。

311・東北大地震の時に台湾から

の義捐金には子供たちのお年玉もありました。

宮城県南三陸町病院が再建されたことを永遠に風化させないために、「希望の輝き」と題する私の大作画を寄贈させていただきました。(新病院の復興のシンボルに、エントランスホール、ロビーには絵が飾られています)

生命力にあふれていますワネ!! 逆境にまけない生命力、台湾のみなさんから莫大な支援をいただきものすごく感動しました。人との情けに深く触れることができた貴重な厚意が骨の髄まで染み込んでいます。

日台の絆が今後さらに強まってくるように祈っております。

日本との縁が深く、縁とは不思議なものです。日本と台湾の国民同士を固い絆で結ぶという貴重な宝物をのこしましたワネ!!

日本と台湾が世界で最も親しい友人となったきっかけになったのです。先輩とよき友が導いてくれたご縁の賜物だと思えます。

日本人の羨ましい、人生。多くを学びまして、時に築いた人脈はその度の私の人生の様々な局面で私を導いてくれることになりましたワネ。

情熱を持って、誠心誠意尽くすことである又私の芸術活動 絵を通じて、この上ない喜びで、この素晴らしい機

会に恵まれましたことに、心から感謝しております。これからも微力を尽くしてまいります。

日本と台湾の絆の成長のため、良好な関係をよりゆるぎないものとするために、不思議な巡り合わせに ありがとうのことばを伝えたいと思います。

日本の真の友は台湾です。台湾の私たちは暖かい愛情と友情を持ち、われわれの真の友人として、平和な世界を共に築く努力を続けていきます。

～夢と勇気と希望を日本に与え続ける～

愛する人に支えられ多くの困難を乗り越えていく ～素敵なご縁に感謝～
縁結び絆 守るべき人がいる。

一輪の花が咲いていて それを見た瞬間感動して涙があふれ出てきたの一輪の花の下には隠れた根の力があるように、人の心の中には、愛の力があります。苦難に愛が乗り越えることができます。夢希望が待っている。



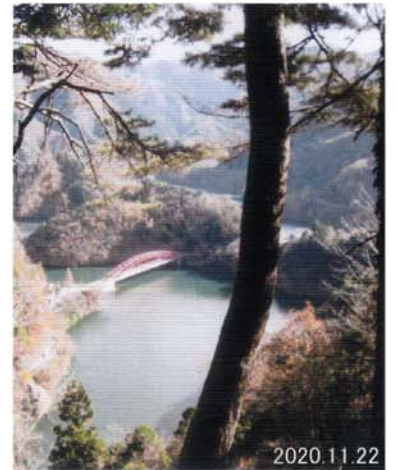
慰霊登山

中村和利（会員）

中国共産党政府から核心的利益として、絶対的に必要とされている台湾は、富士山より高い山が沢山あり、そこに防空レーダーを設置すると、東アジア全体を俯瞰的に見渡せる盤石な国防環境を、中国は手に入れることができる、と言います。

その台湾は、日清戦争で我が国の領土として併合されて、先の大戦の終了まで日本国の一部として存在し、そこの人々は日本人としての教育を受けました。

この台湾への日本の支配は、他の欧米列強の植民地支配とは、明らかに一線を画していて、略奪や奴隷的な支配は一切無しで、基本的には、一緒に汗をかく形での日本的な、文化の移植でした。このような文化の移植タイプは現在でも健在で、サマワに駐留した自



2020.11.22

衛隊の指揮官が夕方まで一緒に働く姿を見て現地人スタッフも時間まで、一緒に汗をながす体制が作られたり、駐屯地がロケット砲で攻撃された時には、

部族長が、攻撃した奴は探し出して絶対許さないと云ったなどと、日本人の醸し出す独特の雰囲気は、外国人からすると、例えられない一体感と呼ぶ力

になってたのでしょう。この一体感なくして社会的な規律は生まれません。日本が台湾に移植した日本精神の中で一番要となったのは、この規律であったと言われています。台湾は温かい南の島です。ある意味リゾートアイランドでした。他のアジアのリゾートからすると台湾の人々は、日本人に似ています。規律と同じように台湾に移植された日本精神に清潔があるそうです。清掃は日本では、仕事ではなく、修行の一環として学校で教えられて来ました。おそらく日本支配下の台湾でも学校には、掃除当番があり掃除当番をサボると悪いことをしたような気持ちを

抱いたに違いありません。清掃は誰のためにするのでしょうか？それはみんなの為なのです。自分の家や机の上をきれいにするのは自分のためであって、誰かのためではありません。自分以外の誰かの為にやらなければ掃除は綺麗にはなりません。

また、日本人特有の考え方に恩義があります。受けた恩に報いるのは契約して約束を守るといふものとは違い、恩を受けた人以外には何のメリットもない物です。

今回伺った台湾人慰霊碑や慰霊塔の存在は、台湾の友達などのいない多くの日本人にとってはそれほどインパクトはないかもしれませんが、少なくとも、日本人として、先の大戦に従軍してくれた台湾人への恩義を忘れずに、

会ったこともない誰かの為に活動した日本人がいたことは日本人として誇りに思う事以外ありませんが、私が最後に考えた事は、この慰霊碑や慰霊塔の存在を台湾政府が承知しているのか？そして仮に知った場合にどのような見解を出すのが気になりました。もちろん否定的な内容ではないとは推察されますが、その内容によっては、現在の台湾の日本精神を知る指標になると考えた次第です。

◆会員募集◆

本会では会員を募集しています。

日本と台湾の友好親善活動をお願いします。無償のボランティアです。意欲と行動力があれば年齢、経歴など問いません。

お問い合わせは事務局まで。

協会ホームページの案内

■ホームページ <http://blia.jp>

■Facebook

<https://www.facebook.com/bliasoc>

協会事務所へどうぞ

協会の事務所をお訪ねください。歓迎します。

台湾のこと、ボランティア活動のこと、協会への提言、意見交換など気軽に話し合いませんか。電話でお出でになる日時を相談して、いい人間関係を作りましょう。

電話 03(3696)0177

協会

海外での日本民芸調建築工事の体験について 畠中治憲(会員)

協会は国際交流を目指し活動しているのが構成員の一人として私の海外歴の一部を述べてみます。

私は、戦後西暦一千九百五十三年の大変な不況の最中、東京の建築会社への推薦を受け上京しました。建設関係の仕事に従事することになり当初から木造・RC・鉄骨工事等の業種に直に携わり、又、建設全般の技術は勿論、社会的知識等も各々の先輩方からご指導を仰ぎ、自分なりに自信がつかしました。

入社翌年に私の成り立ちを左右する運命的な出会いがありました。その人物は、学校の教材を取り扱う会社の社長でありながら、他に事業を計画しているとのことでした。その内容というのが、地方から上京する関係先との交流の場に日本民芸調の建物を造りたいとのアイデアをお持ちのことです。その計画を実現する為、当時、民芸調建築の第一人者である伊東安兵衛先生との交渉

も進み、設計図は既に出来上がっていました。建設地は渋谷。施工、施工図、資材調達、完成までを畠中にとの依頼で浅い付き合いでしたが引き受けました。

当時建設業は不況で工場、店舗工事は有っても住宅金融公庫融資の工事が主でした。そこで私は特殊工事にも関心を持っていたので民芸調建築の技を学ぶ決心をしたのです。努力した結果、のちに社長や伊東先生からの熱い信頼を得ることが出来ました。

五十六年には道玄坂先に社長が、岐阜県白川郷より合掌造りの建物を移築するときも設計は伊東先生、白川郷から移築、完成まで畠中にと指名で無事竣工しました。五十八年には、先生の紹介で、栃木県益子から那須への大民家移築工事も成し遂げました。その後、先生より数多くの民芸調建築工事の紹介を受けました。しかし、不況は続き一般建設業は大打撃を受けて会社は運送業に転向する



再建した合掌造り民家

話があり私も居づらくなあって、知人や先輩の助言を基に決断し、五十九年独立しました。技術で自信はあっても最初のころは同業他社の請負、設計図、積算等の違いを学び、現場監理人として現場に出かけ多面的な技術を



2、3階の合掌の内部

身に着け自社で元請けできる信用を得ました。

或る日、前出の社長が突然上野のビル工事現場に、顔を出したのです。目的は仕事の依頼でした。渋谷道玄坂先にある民芸調建築「ふるさと」の別館を同じく民芸調建築で造りたい、それにはできる人がいないので私に担当して欲しいとの事です。設計は伊東先生です。独立への祝いと思感謝の念をこめ二つ返事でお受けいたしました。六十一年に道玄坂にRC民芸調建築で結婚式場を新築し、六十二年に富山より合掌造りの大型家屋を神田に移築しました。これを境に「ふるさと」との民芸店の海外工事が始まりました。

六十四年に「ふるさとワイキキ店」を伊東先生の設計の元、私が日本とハワイを行き来して木材、家具、畳等輸送完成に至るまで監理しました。

七十年に「ふるさとマカオ店」の工事の時は、クライアントの社長、設計の先生に私と、建築資材調達のため、初めて台湾を訪れました。緑深く、水が豊かで寺院が多いことに感心しました。

コンビを組んでいた伊東先生がこの年に死去されました。その後は民芸調建築の設計の仕事がそのままかぶさり以前にもまして責任の重大さを知りました。

七十三年に「不二家サンフランシスコ民芸調店」1F工事に当たり、役所への手続きは、サンフランシスコ設計事務所のヘンリーツク氏が担当することになりました。氏は台湾出身です。

その時は来日し打ち合わせ、資材加工、加工した資材の輸送等は私共が行いました。七十四年には「いなぎくニューヨーク民芸調店」工事を、設計、資材は日本で加工・輸送して、現場監理に行きました。ニューヨークからハワイへ寄る途中でヘンリーツク氏の会社を訪ね、市内観光等を楽しみながら人間関係を深めました。偶然な事に、強固で有名な日本民芸調建築のベニハナステーキは伊東先生の設計で、その監理手続きはヘンリーツク氏が手がけていた、とのことでした。ハワイでは「ふるさとワイキキフォスタ店工事」が進行しており現場のチェックをしました。この場所は建築工法が厳しく主に職人は日本の大工を雇用しています。

七十五年「ふるさとマニラマカティ工事」では、既に大型民芸店の設計が出来上がり建築工事もほぼ決まっていたが現地の不動産業者が入り込んできて地元との折り

Furusato in Hong Kong



日本の味をいつでもご用意しております。



●香港/大丸デパート向い/パールシティ1F ☎5-762120



料亭工事」では、

八十九年「ふるさとマニラエドサ

八十二年「ふるさとパーレン料亭」は大型工事で木材は日本で加工し家具、建具、畳、照明器具、庭石などを日本から輸入し、職人を同伴しています。この時は中東戦争直前で、コンテナ船がホルムズ海峡を通過する計画に大変な思いをしました。

八十二年「ふるさとパーレン料亭」は大型工事で木材は日本で加工し家具、建具、畳、照明器具、庭石などを日本から輸入し、職人を同伴しています。この時は中東戦争直前で、コンテナ船がホルムズ海峡を通過する計画に大変な思いをしました。

2 設計計画
計画は客層、出し物、規模、種別等が決まり、営業計画、地区調査等を行い設計計

1 建設計画
各国の事情で、建築の資、器、材の輸入禁止や作業員の入国禁止等があるので、建設計画時に調査し実施までに許可が必要です。特に労務管理、ユニオンは先進国で特に強力です。

九十年「ふるさとモスクワ店」の民芸調建築で旧ソ連にも数回足をを入れていきます。以上振り返ると各国々によって資材の輸入禁止や、特に発展国のビザ取得には苦労しました。仕事の上では、幸いにもクレームを受けたことがなくいい仕事できたと思っております。近年は、民芸調建築も少なくなっていますがその仕事に携わった私としては、風情があり一息できる場ではと思っております。海外での工事で必要な条件とは

想定もしないクーデターの巻き添えになり日本でもニュースになったようで、職人のご親族から安否の問い合わせに私をはじめ社員は大混乱に陥りました。現場は、マニラハイウェイで戦車が行き交い、空は軍機が飛び交い爆音と銃声でたいへんでした。軍の制圧でクーデターも収まり、一人のけが人もなく、工事も予定通りに完成に至りました。新設工事だけではなく、以前に手がけた物件の改修やメンテナンスも並行して行っています。

3 施工計画
設計が終り、工事積算、工事項目ごとの仕分け、日本、現地の資材工事の、区分けをして、各項目の発注より工事に入る

4 工事施工
建設工事は計画→工事中→工事完了→営業開始 がすべて一線上にあり、一線上のすべての、日報記録が、大事です。現場では、すべてが、一体化であることを考慮しつつ、業者との打ち合わせがかかせません。

5 工事中の管理
建設工事は必ず変更があるので、変更内容確認の上、速やかに設計変更と積算を行って、関係先と対処しなければならぬ。それには現場員の的確な対応が大事。日本から遠く離れているから職人、資材工程のロス等を少なくするためです。大事なことは、毎日のそれぞれの日報を細かく残しておくこと。必ずしもめんどくさいとは思いますが、書面があれば互いが気持よく了解できる。私はこのような接し方をお互いに尊重してきた。工事が終わりに帰国してもよい印象が残る。このような形で海外工事を行ってまいりました。

画に入ります。設計が終り、工事積算、工事項目ごとの仕分け、日本、現地の資材工事の、区分けをして、各項目の発注より工事に入る



十年を振り返る

田代寛範(会員)

私は昨年5月31日理事長、理事を辞した。在任十年、この間会員、協力者、本会の活動にご理解をいただいた多くの方にはいへんお世話になった。心から御礼を申し上げます。

特定非営利活動法人ベシックライフインフォメーション協会は平成14年創立者の大きな理想をもとに作られたが認証後1年余で活動は休眠状態に陥った。

平成22年春、都の督促により3月再興をはかる準備会が、5月再発足の総会が開かれた。

この総会で理事長に田代が就任した。会では人、モノ、金のない中で何をなすべきか種々検討した結果、対象を絞って台湾に特化し、友好交流、文化交流を地道に続ける方針が決まった。

総会で加藤美智子さん(※)から提案があった。この協会を通して日台関係の強化を図りたい、具体的には日本の超高層ビル第1号の霞が関ビルの建設を牽引した在日七十年の台湾出身建築家 郭茂林氏を紹介する映画の製作であった。郭氏が関わった超高層ビル関係会社からの寄付と、台北駐日経済文化代表處の支援を仰いで製作する計画で、有志により試行されていた。これを協会の事業にすることが総会で決定され、映画の製作と上映は協会運営の柱の一つになった。

郭茂林ドキュメンタリー映画製作実行委員会が作られた。委員に池田圭介、加藤、



2013(平成25)年
学校交流で楽しいひととき。北一女で

郭純、田代、鳥羽展維の皆さんがなり自主製作に着手した。製作実行委員会は委員全員の合意により運営した。この会の開催は三年で100回延べ300時間以上に達した。製作費は不動産・建設企業を主に個人の寄付も募った。資金集めには遅れて委員となった嶋 富士夫氏が霞が関ビル建設委員会OBを代表して力を尽くされた。代表處の支援と委員の努力の結果、製作できる見通しになった。支援をいただいた代表處、寄付された会社等の恩は忘れることが出来ない。



2013(平成25)年
台湾の歌曲に聴き入る

映画は同年東京国際映画祭「もう一つの昭和史」というカテゴリーで公式プレミアム上映を果たした。26年2月からユーロスペースでロードショウが行われ、その後映画館、公共ホール、団体等で上映されてきた。

製作に経験が無い委員はたびたび困難に直面したが、力を合わせて乗り越えた。

私は加藤さんと図り一人でも多くの方にこの映画を見てもらうため自主上映を進めることにした。またDVDを貸出し上映をお願いしてきた。上映は無償貸出しでも会場、映写機材、広報宣伝、人に経費がかかる。上映のために苦勞なされた方のご尽力に深く感謝している。この上映記録は会報19号で詳細お知らせした。蓬萊会事務総長の篠原徹氏は台湾の公共放送「公視」のチャ



2014(平成26)年
北一女の交流団 来日

ネルで放映できるように橋渡しをしてくださって実現した。すべてボランティアでありがたかった。

事業再開で直面したのが庶務、会計の事務と会報の発行である。この業務の殆どは私が10年間、会計は9年間一人で執った。この実務を行う人がいなかった。私は常勤に近い状態になったが黙々とこなした。

協会は国立お茶の水女子大学附属高等学校と台北市立第一女子高級中学を結び付ける働きを始めた。北一女は旧制の台北第一高女で、加藤さんの母堂がこの卒業生で学校交流の希望があることを知っていた。加藤さんと私は非公式に自費で訪問し交流の下地を作った。玉川大学の白柳弘幸先生の資料提供や応援も役立った。これらの上に協会が正式に橋渡しを行った。

この交流は両校の校長が熱心で実を結び、協会は橋渡しができたことを喜んだ。



2015（平成27）年
渡嘉敷講師の熱弁



2015（平成27）年
賑やかな研修会



2015（平成27）年
講師の話に耳を傾ける参加者



2016（平成28）年
ホール内の展示

今後永く発展することを願っている。（会報第19号をご覧ください。）
次に事業の柱として互いの文化を知ることが重要と考え、講演会、音楽会、映画会を開く計画をたてた。
25年11月「医学の進歩を知り台湾の歌曲を楽しみながら食を堪能する会」を開催し、台湾出身の心臓血管外科の医学博士の講演、台湾人のプロ歌手が日台の歌曲を披露した。参加者は会食を楽しみながら懇親を深めた。日台人60名が参加し初の交流事業は成功した。以降次の催しを開いてきた。28年度から映画上映を含め「オール台湾デー」と名付け広報に努めている。
26年 講演「日漢文化の比較」
27年 講話「沖縄・久米島の地上戦体験」踊りと民謡「沖縄民謡と踊りを楽しむ」講演「台湾の近代化に尽くした後藤新平と日本人技術者たち」

28年 講演「知られざる台湾」
29年 台湾人留学生のトークショー「台湾から見た日本と台湾の違い」
30年 講演「超高層ビル出現の歴史と意味を考える」
令和1年 音楽クラシックコンサート
「二胡とピアノの伴奏による日本と台湾の歌」
講演「私の産まれ島 台湾」
これらの事業の実施には幾多の困難があった。講師の謝礼、会場費などである。私は協会の活動に理解をいただくように努め薄謝或いはボランティアで協力していた。感謝にたえない。
練馬区が設置した区民産業プラザのココネリを無償で利用できるようになった。会場費免除は事業を実施するのに大いに役立っている。ココネリホールは500人が入れる。イス机は格納倉庫から運び並べな

ければならない。会員が少なく実働できる人は限られている。ある年は会員が応援者を連れてきて助かった。私は毎年知人、子を動員した。期待している人、催しを喜んでくれるお客さんの顔が背中を押してくれた。
台湾で漢詩を日本語で吟じる愛好家集団がいるとの加藤さんの情報で、詩吟剣舞詩舞、着物の着付を指導している星野光世さんと協議し、台湾で日本の伝統芸能を紹介しようという意見が一致した。女史傘下の会員に呼びかけて大会を開く協力が得られて協会の出場者等を含め総勢40余人になった。現地のプロデューサーを壇上典子氏が引き受けてくださった。彼女は台湾人詩吟愛好者の参加呼びかけ、着物ショーに出るモデルさんの確保、美容師の手配、関係官公署などきめの細かい対応にすばらしい活躍をした。
参加費は協会役員の活躍で廉価になっ

た。会場は台北の老舗ホテル、ハーワード華大飯店に2泊し大会をホールで開く。交渉は郭さん加藤さんが、移動手段は尹世玲さんが役割を果たした。
当日はホールいっぱい約600人で華やかにオープンした。私の開会式辞の後、書道吟、李白の「静夜思」を書道家川添ミチ子さんの大筆さばきで披露した。加藤さんは構成吟の「花月吟」に合わせて生花を大きな壺に盛り込み舞台を飾った。
星野さんの「舟中子規を聞く」及び会員の皆さんの詩吟は見事であった。星野会員の着物の着付け、袋帯結びの実技も圧巻だった。台湾の人の詩吟は立派にできた。このようにすべて順調で、パーティーも150人参加で和気あいあい、歓声のうちに終わった。
協会事業のもう一つの柱は台湾人戦没者慰霊碑慰霊である。25年秋から奥多摩湖の



2016 (平成28) 年
高雄市政府消防局に救助犬として出発する「小江」



2017 (平成29) 年
第2回オール台湾デー 留学生大いに語る



2017 (平成29) 年
台湾での詩吟大会で

北山中にある慰霊碑前で行っている。先の大戦で日本人兵士として出征し、戦没なされた方々の追悼である。これも参加者の協力で恒例の行事として定着した。この慰霊に賛同し今日まで3回僧侶がボランティアで法要を行っていただいた。

2016年、協会は高雄市政府消防局に捜救犬を寄贈した。日本犬では珍しい(一社)JKCの災害救助犬Aの認定を受けた柴犬「小江」で、国際交流に寄与できたことは特筆したい。

忘れてならないのは会員と有志からの寄附である。あくまで任意による。長年にわたって寄付をなさってきた協会を大事にしている篤志家がおられる。会費(年6000円)だけではできないので多に助かる。寄附金が活動の源泉になっている。協会の活動に尽力しさらに事務所を長年

無償で提供してこられた加藤さんの貢献は大きい。

協会を知る手掛かりに今日ではホームページや会報を見る、或いは事務所を訪ねる人が多くなった。事務所があるため、訪問者を迎えゆっくり話が出来る。

このように見てくると協会の歩みは順調のように見えるかもしれない。しかし実態はやるうという人がいない悩みを常に抱えてきた、

協会の根本精神は無償のボランティアであり、独立自尊をモットーとしてきた。したがって何らかの対価を期待する人は落胆する。長続きしない。

私は一時でも台湾が好きになり協会と共に関わり合おうとする気持ち、行動を高く評価してきた。一人では何もできない。過去の事業の多くは会員の1回限り

1年だけの一生懸命な努力の集積で行われてきた。無償の奉仕これが尊いと思う。私は去るものは追わず、来る者は拒まず。仲良く協力しようの精神で努めてきた。しかし一方で協会の推進力になる新人を養成できなかつたこと、内心忸怩(じくじ)たる思いである。

過去には辛いこと苦しかったことが多かった。過ぎ去ると今それらは喜びとして帰ってきている。心は充実感、達成感に満ちている。この十年多くのことを学ばせていただいた。感謝でいっぱいです。

これからも協会が多方の力を集めて人とのつながりを大事に発展していくのを心から願っています。

※(さん付は協会の役員会員、氏は会員でない方です)

○ベシックライフインフォメーション協会は、日本と台湾の親善友好交流を目的とした活動を行っているNPO法人です。会員の会費と拠出、有志の寄付によって運営する自立したボランティア団体です。

○「基礎生活資訊協會」係本著以日本及台湾親善友好交流為目的、(不定期)舉辦活動之NPO法人協會。同時是一個各項經費支出來自於會員會費及各方捐款的獨立自主營運的志工團體。

本協会の構成員 令和2年11月30日現在

- | | | |
|-----|--------|--------|
| 理事長 | 加藤美智子※ | 田代 實範※ |
| 理事 | 尹 世玲 | 鳥羽 展維※ |
| 理事 | 中村 和利 | 仲里 建良 |
| 理事 | 林 政明 | 畠中 治憲 |
| 監事 | 岡村 悦子 | 松山 達郎 |
| 監事 | 郭 純※ | 松本里代子 |
| | 尹 世瑠 | 林 銀 |
| | 上里 佑子 | 一青 妙 |
| | 江波戸つぎ | 楊 麗煥 |
| | 児玉 治 | 匡 名 |
| | 銭 妙玲 | 田代 守 |
- ※は映画製作実行委員会委員

特定非営利活動法人
ベシックライフインフォメーション協会
会報第20号

発行日 令和二年十二月二十五日
発行所 東京都練馬区石神井町
六二二一三
電話 〇三―三九六―〇一七七
発行人 加藤 美智子